

第2章 鈴鹿市の自然環境

第1節 鈴鹿市の自然概況

三重県の北部に位置する鈴鹿市は、北西部の鈴鹿山地域を軸に扇形に広がる台地、丘陵地、低地の東側には伊勢湾に面する長い海岸が続いており、自然環境は多様性に富んでいます。

平成16年度から3年間実施した自然環境調査では、多くの希少種を含む7,704種におよぶ動植物が記録され、また、「三重県レッドデータブック2005」掲載種のうち、準絶滅危惧種以上にランクする239種の生息・生育が確認されたほか、昆虫類ではハバビロコケシマグソコガネ、トウカイニンフジョウカイが新種記載されています。

このように、鈴鹿市は、多様な自然環境に多くの希少種を含む多様な生物が生息・生育している生物多様性に富んだ自然豊かなところです。

生きものや自然を守ること
は、生態系の一員として共に生きるわたしたち人間の豊かな暮らしを守ることにつながっています。多様性に富んだ本市の自然を守りながら、その恵みを上手に利用する共生の知恵を未来に引き継いでいくためには、自然の中のわたしたち人間と生きものとのつながりに思いをめぐらせ、身近なフィールドで、少し視線をのばしたり、一歩前に進むことから始めることが大切です。



第2節 自然環境調査

平成15年度から平成24年度まで、専門家の方々を中心に、市民の方々にもご協力をいただいて自然環境調査を実施してきました。

1 鈴鹿市の自然—鈴鹿市自然環境調査報告書—

平成16年度から18年度まで3年間かけて、専門家を中心に、多数の市民にもご協力いただいて自然環境調査を行った結果を「鈴鹿市の自然—鈴鹿市自然環境調査報告書—」としてまとめています。



2 新種のコガネムシが発見されました

鈴鹿市が平成16年度から18年度まで行った鈴鹿市の自然環境調査で、新種のコガネムシ、ハバビロコケシマグソコガネ（学名 *Myrhessus yorikoeae* Ochi, Kawahara et Inagaki（ミレレス ヨリコアエ オチ, カワハラ エットイナガキ））が発見されました。



3 大発見！鈴鹿市の自然－鈴鹿市の自然ガイドブック－

平成16年度から18年度の3年間にわたる自然環境調査をまとめた「鈴鹿市の自然－鈴鹿市自然環境調査報告書－」をカラー写真やイラストを多数掲載し、分かりやすい内容に再編集し、「大発見！鈴鹿市の自然－鈴鹿市の自然ガイドブック－」として発刊しています。



4 鈴鹿川流域自然環境調査報告書

（鈴鹿市自然環境調査員養成講座報告書）

平成18年度から20年度までの3年間、自然環境調査を行える人材を育成することを目的に自然環境調査員養成講座を実施し、鈴鹿川流域で行った自然環境調査の結果を「鈴鹿川流域自然環境調査報告書」（鈴鹿市自然環境調査員養成講座報告書）としてまとめました。



5 重要生態系地域の自然環境調査報告書

平成20年3月に発刊した『鈴鹿市の自然－鈴鹿市自然環境調査報告書－』の中で、複数の分野で『三重県レッドデータブック 2005』に掲載されている種や、学術的に貴重な種、三重県初記録種などが、生息・生育することが確認された地域の中で、特に生物相の構成が多様であるか、生息環境として重要として認められる地域について、「重要生態系地域」として紹介しています。

平成21年度から平成23年度の3年間にわたり、公募した市民調査員と専門家の協力により、「重要生態系地域」を中心に、各分野で調査対象を選定し、「重要生態系地域の自然環境調査」を行ない、平成24年3月に「重要生態系地域の自然環境調査報告書」としてまとめました。



第3節 里山保全

1 里山とは

里山とは、人の手が加えられて、維持されてきた雑木林（コナラ林）、アカマツ林、竹林、スギ林など里山林を中心に、人々の暮らしと深くかかわってきた農山村地域のこと。

里山林の他には、耕作地（水田、畑）、水辺（小川、ため池）、それに人の住む集落があり、4点セットで里山になる。全部、人の手が加えられ、人によって作られたもので原生の自然には見られない独特の景観をもっています。

様々な林や水辺など変化に富んだ自然環境が存在する里山には、それぞれの自然環境に適した多様な生き物（植物、動物）がみられ、長い間、自然と人の営みによって築かれてきた里山はそこに住む生き物と人間がうまく共生してきたところでもあります。

鈴鹿市南西部では、丘陵地の谷筋に農地が帯状に連なっており、典型的な里山の風景が展開しており、平成16年から18年にかけて実施された「鈴鹿市自然環境調査」においては、鳥類や昆虫類などで希少種が確認されるなど、動植物の生息・生育地となっています。



2 里山保全体験

鈴鹿市の南部丘陵地に位置する深谷公園は、昭和47年から平成9年3月までの25年余りにわたり、不燃ごみを対象とした「鈴鹿市一般廃棄物最終処分場」として埋立てを行っていた深谷処理場の跡地を整備し、平成18年に西側の8ヘクタールを一部供用し、平成21年3月に、東側の12.5haを開園し、併せて20.5haを全面開園しました。

この公園は、周辺の里山環境と調和しながら、園内には、多目的広場、自然観察園、お花見広場、芝生広場、遊具広場等を有し、市民の憩いの場所となっています。

斜面には、コナラ林、スギ林、竹林などの林が見られます。これらの林は50年程前までは薪炭林や農用林、建築用林など生産の場として利用されていましたが、今では、その目的を失って放置され、荒れたままの林となっています。

そこで、鈴鹿市の代表的な里山林の一つであるコナラ林をかつての明るい、多様な生き物の住むコナラ林に復元するために保全・施業計画を立て、計画に従った植生保全を実施することにしました。

平成22年度から開始したこの事業の活動記録は以下のとおりです。

第1回 平成22年4月24日（午前の部）

市役所本館 1203 会議室において、講師（桐生定巳さん（三重自然誌の会））から、かつての里山の姿、森林の移り変わりや伐採して再生するしくみ、手入れされなくなり荒れてしまった里山林の様子と姿を見られなくなった花についてお話しいただいたうえで、里山林を元気にする手法、今後行なう植生調査や間伐などの活動についての説明を行いました。



第1回 平成22年4月24日（午後の部）

同日午前の座学を踏まえ、午後には深谷公園に入り、現地の現況を観察したうえで、講師の指導のもと、10m×10mの方形区を2ヶ所とり、植生調査を行いました。



活動の中心となるコナラ林は、近年まで人の手が入っていたようで、ヒサカキやネズミモチなどの常緑樹は低木が多く、方形区の半分程度は日光が差し込んでおり、シユンランやコアジサイも見られました。

第2回 平成22年10月24日

4月に植生調査を行ったところを中心に、常緑樹の伐採を行いました。伐採した樹木は、深谷公園内でチップ化しています。



第3回 平成23年2月20日

昨年10月に間伐したところから範囲を広げて、常緑樹の伐採を行いました。伐採箇所は、さっぱりときれいになりました。



作業中



作業後

第4回 平成23年7月10日（午前の部）

国府公民館において、講師（桐生定巳さん（三重自然誌の会））監修のもと作成した里山保全体験の施業計画「深谷公園における里山保全活用について」にもとづき、昨年4月に行った植生調査に重要生態系地域の自然環境調査のデータなどを加えた現存植生を踏まえ、地形などから、

①野生草花型林床（ササユリやキンラン、キキョウ、アキノキリンソウなどの花が見られるゾーン）、②野生花木型林床（ムラサキシキブやコバノガマズミ、カマツカなど秋に美しい実が見られるゾーン）、③雑木林型林床（落葉樹林のゾーン）の3つのタイプで構成する里山林に再生する施業計画などについて講義を受けました。



第4回 平成23年7月10日（午後の部）

午前でレクチャーを受けた資料や植生図をもとに、深谷公園内を散策しながら、植生や希少な植物等の観察を行い、里山保全体験の施業区域では、施業計画図をもとに、3つのタイプの林床に管理するゾーン分けの確認や2月の間伐後の萌芽更新、希少種の育成状況などを観察しました。



第5回 平成23年11月13日

昨年10月、今年2月に伐採したところは日光がよく入るようになっていました。さらに範囲を広げて、常緑樹の伐採を行いました。今回は、お試しでチェーンソーを使って太いコナラ1本切ってみました。



番外 平成23年12月12日

講師ほか数名で、しいたけの菌打ち用に、コナラを切りだし、原木を作りました。

第6回 平成24年1月29日（午前の部）伐採

4 回目の伐採になります。午後にきのこの菌打ち体験をすることもあり、史上最多30名オーバーの里山ボランティアが集結。常緑樹を綺麗さっぱりと伐採しました。



第6回 平成24年1月29日（午後の部）シイタケの菌打ち体験

里山ボランティアさんたちのお楽しみとして、あらかじめ、昨年12月中にチェーンソーで間伐したコナラの大木を原木にシイタケの菌を打ちこみ、お持ち帰りしていただきました。いつも参加していただいている鈴鹿高校自然科学部の皆さんには若さを活かして、穴あけをしていただきました。



第7回 平成24年3月4日 自然観察と次年度の活動の確認

あいにくの冷たい雨。作業はとりやめ、公園内の散策路を歩き、作業後の活動地を観察したあと、来年度以降の活動について、確認をしました。

これまで常緑樹の伐採などを行ってきた所を徐々に広げながら、当地に自生していた野生の草花や花木が見られるように整備していくほか、来年度以降は隣接する竹林のタケノコ踏みでコナラ林への竹の侵入を防ぐ取り組みも加えていくことにしました。現在活動している所が、ある程度、整備されたら、日当たりが良く、より多様な野生植物が復活する可能性が高い多目的広場沿いの場所へ活動場所を移すことも計画として打ちだされました。

また、観察会を年2回ほど実施することも提案されました。

第8回 平成24年6月10日 自然観察会・初夏の深谷公園を訪ねて

里山ボランティアのメンバーに一般参加の方々も加わり、深谷公園の散策路に見られる草木の観察を行ないました。

お花見広場に咲くシロツメグサの花で植物の花の造りや生きるための戦略を学んだあと、アカマツ・クロマツやクリなど実のなる木の花や実など、シダ植物を観察し、その成長過程などを観察しました。



第9回 平成24年11月18日 自然観察会・秋の深谷公園の歩き方

冷たい風が吹く中でしたが、里山ボランティアメンバーのほか、子ども連れなど一般参加の方々も含め、多くの方々に参加いただき、深谷公園の散策路を歩きながら植物（木の実・草の実など）と野鳥の観察を行ないました。

初夏に花を中心に観察した実のなる木のドングリなどの様子やひつつきむしの構造などを通して、植物が子孫をより広く・多く残すための戦略などについても学びました。また、野鳥の観察では、強風と冷え込みのため、あまり多くは見られませんでした。ヒヨドリが盛んに鳴き、6種ほどの鳥の姿や声を楽しみました。



第10回 平成24年12月1日（午前の部）伐採

今回から新たにイオン鈴鹿チアーズクラブの子供たちが加わりました。講師の先生より里山保全活動に関するレクチャーをいただき、常緑樹の伐採を行いました。



第10回 平成24年12月1日（午後の部）伐採とシイタケの原木づくり

午後からは里山ボランティアさんたちはシイタケの原木づくりを、イオン鈴鹿チアーズクラブの子供たちは、午前に引き続き常緑樹の伐採を行いました。



第11回 平成25年1月27日（午前の部）伐採

今まで伐採してきた場所からさらに範囲を広げ伐採を行いました。午後からはシイタケの菌打ちをすることもあり、約100名の里山ボランティアさんたちが集まりました。伐採後は、かなり明るくなりました。



第11回 平成25年1月27日（午後の部）シイタケの菌打ち体験

子供たちも大人のボランティアさんたちに教えてもらいながら、菌打ち体験を楽しみました。打ち込んだボタ木は、お持ち帰りしていただきました。



第12回 平成25年2月23日 伐採

明るくなった里山林から春にかけてイワカガミ、イチヤクソウ、コアジサイなどの花が咲くように、それが植生している箇所をマーキングして、笹を刈ったり、落ち葉をかき集めた。



第13回 平成25年3月16日 放置竹林の講義，竹の伐採

国府公民館で講師の先生より昔は人々の生活に密着した有用な植物であったが、生活の変化とともに、需要が減り続け、放置竹林化した経緯などの講義をしていただいたあと、深谷公園内で竹の伐採を行った。

